

### 1. 到達目標

#### A) 一般目標

脳神経外科疾患は緊急性の高い疾患が多く救急対応が必要となる疾患が多い。また意識障害を伴っていることもあり病歴の把握が困難なこともある。そのため神経診察の基本を理解し患者に対し適切な対応を迅速にとることができることを目標にする。

#### B) 行動目標

- (1) 患者および診療スタッフと良好なコミュニケーションをとることができる。
- (2) 患者に対して適切な問診および神経学的所見をとることができる。
- (3) 脳神経外科領域における基本的な検査法および手技を理解し実施できる。
- (4) 画像検査の適応を判断し、実施読影出来る。
- (5) 手術適応の有無を判断出来る。
- (6) 患者の問題点を把握し、適切な治療法を提示できる。
- (7) 手術の助手、外来での介助ができる。
- (8) 運動障害・言語障害。嚥下障害のリハビリテーションの適応を判断し依頼出来る。

### 2. 方略(On the job training(OJT))

ローテート開始時に指導医、上級医と面談し、自己紹介、研修目標の設定を行う。ローテート終了時には評価表およびフィードバック面談シートの記載とともにフィードバックを受ける。

#### (1) 外来における研修

1. 脳神経外科および救急外来での診察を指導医・上級医に指示された際には、診察に応じる。
2. 診察時は指導医指示のもと検査、処置、患者への説明を行う。

#### (2) 病棟における研修

1. 患者の状態を理解し変化に気づく。
2. 検査、処置を適切に行う(抜糸、ドレンの抜去などを含む)。
3. 病棟の状況を理解し検査、処置を適切な時間帯に組み込み、予約も行う。
4. インフォームドコンセントの方法を学び、主治医の指導のもと自ら行う。
5. 担当患者の退院サマリは速やかに記載し、指導医に確認して完成する。
6. リハビリテーションカンファレンスに参加し患者の退院後の方針を確認する。

#### (3) 手術における研修

1. 入院患者の手術に助手として参加する。
2. 手術の手順を予習し、理解して手術に参加する。
3. 慢性硬膜下血腫の手術に関しては皮膚切開から穿頭まで指導のもと適切に行い、術後の患部の保護まで経験する。

### 3. 評価

- (1) 研修医は、EPOC2 の研修医評価表で、臨床研修到達目標項目の自己評価による研修達

成度評価を行い、ローテート終了時に自己評価記載を完了する。指導医は、同評価表の研修医自己評価を確認し、当該ローテート研修の指導医評価記載を完了する。指導医による評価結果は EPOC2 上でフィードバックされる。

- (2) 臨床研修指導医は、EPOC2 上で診療・手技・患者マネジメントについて適時評価を行う。
- (3) 臨床研修指導医または上級医は、本カリキュラムの行動目標のすべてに対する観察を行い、ローテート面談を適宜実施し、形成的評価をフィードバック面談シートに記録する。ローテート終了時の面談では、適宜看護師などの指導者も入り、総合的評価のフィードバックを行い、フィードバック面談シートに記録する。
- (4) 臨床研修指導医は、研修医が作成した病歴要約により、経験すべき症候、疾病、病態に関する理解度について WPOC2 上で形成的評価を行う。
- (5) 上記評価の上、次のローテーションで何を学ぶべきかなど、目標達成の方向性を見出せるように省察の時間を持ち、話し合いを行う。

#### 4. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	回診、病棟、 救急	回診、病棟 救急	回診、病棟、救急	回診、病棟、 救急	回診、病棟、 救急
午後	病棟、救急	病棟、救急	病棟、救急、 リハビリテーションカンファレンス	病棟、救急	病棟、救急